

東洋思想文化

般若經の意図するもの

渡辺 章悟(122)

支那内學院における日本佛敎學受容の側面
— 呂澂編譯『印度佛敎史略』に見る原書の改變を中心に —

伊吹 敦(98)

王畿「書續溪穎濱書院同心會藉」 訳注
— 陽明門下の講会活動記録を読む(三) —

小路口 聡(1)

東洋大学文学部紀要第71集

東洋思想文化学科篇

V



東洋思想文化

(東洋大学文学部紀要第七十一集)

東洋思想文化学科篇V(平成三十年三月)

EASTERN PHILOSOPHY AND CULTURE

Bulletin of the Faculty of Letters

Toyo University

No. 71

March, 2018

Series of

EASTERN PHILOSOPHY AND CULTURE

V

CONTENTS

SHOJIGUCHI Satoshi : Japanese Translation and Notes of
Wang Ji (王畿) 's "Shu Jixi Yingbin Shuyuan Tongxin Huijie
(書續溪穎濱書院同心會藉)"
—Jing-hui (講会) Activity Recorded by Wang Yangming (王陽明)
School (Part 3) (1)

IBUKI Atsushi : The Acceptance of Modern Japanese Buddhism
at the Zhina Neixueyuan (支那内學院) :
Focusing on Lu Cheng (呂澂) 's *Yindu fojiao shilue* (98)

WATANABE Shogo :
The Ideological Intention in the Prajñāpāramitā Sūtras (122)

Published by
TOYO UNIVERSITY

Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

研究室報告

① 今年度は、野間信幸教授（国内特別研究）と山口しのぶ教授（国外特別研究）が研究に専念するために講義等を担当しなかった。

② 今年度も新入生歓迎行事として四月二三日に「新入生研修旅行」を行い、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館を見学した。東洋思想文化学科一年生のガイダンスとして実り多い見学会となり、また学生相互あるいは教員との交流を深めることができた。関係各位には厚く御礼申し上げます。

③ 今年度は海外文化研修（インドネシア）を九月七日から一五日の日程で実施した。哲学科、英米文学科、教育学科からも参加者があり、伊藤撰子氏（教育学科助教）に引率その他の面で御協力をいただいた。また、現地にて海外特別研究中の山口しのぶ教授も全日程にわたって同行し、研修の実施に協力した。

④ 十一月八日には「東洋大学文学部伝統文化講座」の一環として、東洋思想文化学科主催、東洋大学仏教会・同仏教青年会協力にて、真言宗豊山派迦陵頻伽聲明研究会による聲明公演「大般若転読会 智慧の梵風に吹かれて」（本学井上円了ホール、十四時四十五分～十六時十五分）を開催した。出演者の皆様及び関係各位には厚く御礼申し上げます。

⑤ 本年度、大学院（インド哲学仏教学専攻）の公開研究発表会を春学期（六月二十八日）と秋学期（十一月二十二日）に開催した。春学期は新入生研究計画・蓮見太郎、古川峻、村田良子・伊藤頼人（D3）、「マハーバーラタ」における戦争の形―鉄の矢 *Pariga* について―、藤井明（D3）「インド密教における自在在天の住処―『プータダーマラ・タントラ *Ekalinga* の記述を中心として―」、板敷真澄（D3）「初期真宗における東国門徒の戒律観―藤井明（D2）、板敷真澄（D3）、

の研究発表があった。また秋学期は谷釜智洋（M2）「真宗大谷派の布教冊子『御大典と真宗』にみる「真俗二諦」論―仏道仏教化に着目して―」、プラマハ・パンジェット（D1）「菩薩健度における境界 (*graha*)」、崎山忠道（D2）「『了本生死經』における「内縁起」の「因」について―他の四漢訳に引き継がれなかった箇所を中心として―」、鈴木伸幸（D2）「*Sikṣas amucayaya* の菩提心説における菩薩乘と声聞乘」

また両発表大会に先立ち、学外講師をお招きし御講演戴いた。各大会の講師名、所属、講演テーマは以下の通りである。

〔春学期発表大会〕 引田弘道先生（愛知学院大学文学部宗教学文化学科教授）「神と祭祀―『サートヴァタ・サンヒター』を中心として―」

〔秋学期発表大会〕 西村実則先生（大正大学仏教学部教授）
題目「マガダ語からサンスクリットへ―インド仏教徒の使用言語―」

両先生には厚く御礼申し上げます。

⑥ 本年度のティーチングアシスタントは、板敷真純、黒田祐介、澤田容子、志村敦弘、藤井明、三澤博枝、盛田綾希（五〇音順）の各氏が担当した。

⑦ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、第Ⅰ部東洋思想文化学科では一〇六名、第Ⅱ部東洋思想文化学科では一四名、また第Ⅰ部インド哲学科では四名、中国哲学文学科では三名であった。大学院の修士論文提出者はインド哲学専攻では一名、中国哲学専攻では四名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は左記の通りである。

【校友会奨学基金】

学部 村田啓輔「一乗思想におけるdharma[ra]の意義」

（Ⅰ部）

山口 満「高適における「知己」の表現について」

（Ⅱ部）

大学院（インド哲学仏教学専攻） 該当者無し

（中国哲学専攻） 豊田尚徳「康有為の大同思想形成

の過程」

【勸学奨学基金】

学部 笹谷怜那「北東インド・ナガランド人のアイデン

ティティの源泉」（Ⅰ部）

杉山陽子「ハタ・ヨーガの伝統―主要3文献の比

較」（Ⅱ部）

【田村芳朗奨学基金】

学部 石井慶太「戦時中における鈴木大拙の思想」（Ⅰ部）

伊藤萌子「弥勒仏像の信仰と図像的特徴の関係性

―中国と日本の作例を中心に―」（Ⅱ部）

大学院 該当者無し

二〇一七年度業績（二〇一七年一月～十二月）

伊吹 敦

○研究活動

〈論文〉

『楞伽師資記』と『跋陀三藏安心法』——その日本将来と天台宗への影響（『東洋思想文化』四、二〇一七年三月三十日、一一〇～一六〇頁）

『初期禅宗と最澄の円頓戒——石田瑞磨・鏡島元隆両氏の所論に反駁す』（『禅研究所紀要』四五、二〇一七年三月三十一日、一三六～一六二頁）

『臨済と普化——禅思想の完成と新たな聖者像への欲求』（『臨済録』研究の現在）禅文化研究所、四、二〇一七年六月三〇日、八九～一一〇頁）

〈その他〉

『禅の終焉（中） 要説・中国禅思想史 四八』（『禅文化』二四三、二〇一七年一月二十五日、一〇〇～一〇八頁）

『禅の終焉（下） 要説・中国禅思想史 四九』（『禅文化』二四四、二〇一七年四月二十五日、一〇七～一一七頁）

『仏教界の覚醒と禅（上） 要説・中国禅思想史 五〇』（『禅文化』二四五、二〇一七年七月二十五日、四九～五六頁）

『仏教界の覚醒と禅（中之上）』要説・中国禅思想史 五一（『禅文化』二四六、二〇一七年十月二十五日、一三六～一四五頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本佛教学会（理事）／日・韓・中国国際仏教学術大会（幹事・編集委員）／東アジア仏教研究会（役員）／日本印度学仏教学会（会員）／早稲田大学東洋哲学会（会員）
学会発表等

『初期禅宗と般若經』（二〇一七年五月二十日、国際禅研究プロジェクト第II部会第一回研究発表例会、東洋大学白山キャンパス、文学部会議室、十月二十八日、第七回日中仏学会議、中国烟台市福山賓館）

『道塔による「開法」と最澄への影響』（二〇一七年六月十七日、国際禅研究プロジェクト第I部会第一回研究発表例会、東洋大学白山キャンパス、文学部会議室）

『最澄が「四宗」を相承したとする言説はいかにして生まれたか？』（二〇一七年九月二日、日本印度学仏教学会第六八回学術大会、特別部会、花園大学・惺々館四〇三教室）

〈講演〉

『中国仏教の基礎知識』（二〇一七年一月三十日、アジア冠婚葬祭業国際交流研究会、冠婚葬祭総合研究所）

『禅宗の成立と日本への伝来』（二〇一七年三月十日、第七八回J R東海生涯学習財団歴史文化講座、よみうりホール）

「胡適の禪研究の史的意義とその限界」(二〇一七年七月三日、駒澤大学仏教学会、駒澤大学駒沢キャンパス中央講堂)

「禪研究の意義と国際的禪研究ネットワーク構築の必要性」武漢大学国際禪文化研究中心」と「東洋大学国際禪研究プロジェクト」(二〇一七年五月二十七日、武漢大学国際禪文化研究中心設立記念講演、武漢大学)

〈研究プロジェクトへの参加〉

科学研究費助成金「海外の研究者との連携による中国・日本における禪思想の形成と受容に関する研究」(基盤研究(A)17H00904) 研究代表者

井上記念研究助成…海外協定校との共同研究「中国人民大学・金剛大学校と結んだ交流協定に基づく国際シンポジウムの共同開催」研究代表者

井上円了記念研究助成…東洋学研究所プロジェクト「東アジアにおける仏教思想の成立と展開、並びにその意義の解明」研究代表者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…東洋思想文化演習・卒論指導⑥(I部、通年)

中国仏教史A(I・II部、春学期)

中国仏教史B(I・II部、秋学期)

仏教漢文A(I部、春学期)

仏教漢文B(I部、秋学期)

東洋思想特講II A(I部、春学期)

東洋思想文化への誘いA(I部・II部、春学期)一回担当

「中国仏教入門」(七月十二日、一時限/七月八日、七時限)

東洋思想文化への誘いB(I部・II部、秋学期)一回担当

「禅思想入門」(十一月二十二日、一時限/十一月二十五日、六時限)

近代化と東洋(I・II部乗り入れ、秋学期)一回担当
「中国の近代化と仏教」(十月十一日、七時限)

総合ⅧB1(校友会寄附講座、I・II部乗り入れ、秋学期)一回担当

「哲学館の後継者たちの活躍」境野黄洋、高嶋米峰など(十二月二十三日、五時限)

大学院…中国仏教研究I・仏教学研究指導IV(前期課程)
仏教学特殊研究Ⅲ・仏教学研究指導IV(後期課程)

○大学管理運営活動

自己点検・評価活動推進委員会委員(文学研究科)、文学部グローバル化推進委員会委員、東洋大学東洋学研究所研究員・編集委員

○社会的活動

(公益財団法人) 中村元東方研究所兼任研究員

岩井 昌悟

○研究活動

〔論文〕

学会参加

日本印度学仏教学会第六八回学術大会（花園大学）に参加、

二〇一七年九月二日～九月三日

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本佛

教学会（会員）／仏教思想学会（会員）／パリリ学仏教文化学

会（普通会員）、日本チベット学会（会員）／国際井上円了学

会（理事・副会長）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学国際哲学研究センター（センター長・河本英夫「東洋

大学）研究員

井上円了記念研究助成・東洋学研究所プロジェクト「東アジア

における仏教思想の成立と展開、並びにその意義の解明（研

究代表者・伊吹敦）研究分担者

○教育活動

〔学内担当科目〕

学部・インド学仏教学演習⑤（Ⅰ部）

インド仏教史A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

東洋芸術文化特講ⅣA（Ⅰ部）

レポート・論文制作の技法（Ⅱ部）

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、春学期）二回

担当

「初期仏教入門―ニカーヤ・阿含・律」（五月二十七日、

六時限／五月三十一日、一時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回

担当

「初期仏教入門―アビダルマ」（十月十八日、一時限／

十月十四日、七時限）

東洋の身体論（Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ）一回担当

「仏教の身体論」（五月二十四日、七時限）

総合ⅧA1（校友会寄附講座、Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、春

学期）一回担当

「日本をどう考えるのか―井上円了の忠と孝」（五月

二十日、五時限）

「井上円了の教育と仏教」教育は勸語に基づき、宗教

は仏教を取る」（六月十七日、五時限）

全学総合ⅠA一回担当

「初期仏教における正義と自由」（七月二十日、五時限）

東洋大学・井上円了研究一回担当

「井上円了の釈迦」（五月十三日、四時限）

大学院・初期仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ（前期課程）

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ（後期課程）

○大学管理運営活動

第二部 東洋思想文化学科学科長／井上円了研究センター運営委員
員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋大学
国際哲学研究センター研究員

川崎 ミチ子

○研究活動

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

仏教史学会（会員）・日本中国学会（会員）・道教学会（理事）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：一

中国文学講読①（A・B I部）

中国文学講読B（I部）

中国文献学A・B（I部・II部）

中国文学講読A・B（II部）

漢文訓読法（I部・II部）

東洋思想文化への誘いA（I部・II部、春学期）二回

担当

「敦煌学入門Ⅰ―敦煌文献とは何？」（六月十七日、一

時限／六月二十日、七時限）

東洋思想文化への誘いB（I部・II部、秋学期）二回

担当

「敦煌学入門2―十王思想文献を中心に」（十一月十一
日、一時限／十一月二十一日、七時限）

○大学管理運営活動

図書館運営委員会委員・図書館図書選書担当（学部内）・学科
内会計担当

東洋大学東洋学研究所研究員・東洋大学アジア文化研究所研究
員

○社会的活動

東洋大学公開講座（秋学期）…敦煌文書から見る中国人の死後
世界について――十王経写本を見てみよう――（第一回十月
十四日・第二回十月二十一日）

坂井 多穂子

○研究活動

〈その他〉

・「南宋詩人、楊萬里研究に関する報告」（『東洋大学東洋学
研究所プロジェクト「日本、モンゴル、インド、中国にお
ける共生的精神文化の諸相」平成二十六（二〇一四）〜平
成二十八（二〇一六）年度 研究報告書』一五〜三十六頁、
二〇一七年二月、研究代表者 山崎甲一、東洋大学東洋学研
究所）

〈学会発表等〉

・「南宋中興期における蘇軾」（二〇一七年四月二十二日、「八

狗之會」、國學院大學)

- ・「南宋中期における蘇軾——陸游と范成大の場合——」(二〇一七年五月十三日、「戴復古五律讀書会」、早稲田大学)
- ・「南宋中期における蘇軾の受容——陸游と范成大の場合」(二〇一七年五月二十七日、「日本宋代文学学会」第四回大会、岡山大学)

- ・「乾淳」と「元祐」——南宋詩人は北宋詩人をどう見たか」(二〇一七年七月二十九日、「白山中国学会」第十三回発表大会、東洋大学)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

- 日本中国学会(大会委員会委員)／日本宋代文学学会(理事)／白山中国学会(理事・会計委員)／中唐文学会(会員)／中国文史研究会(会員)／日本杜甫学会(会員)／中

○教育活動

〈学内担当科目〉

- 学部・東洋思想文化演習Ⅰ(Ⅰ部・Ⅱ部)
- 中国文学演習Ⅱ
- 東洋思想文化演習Ⅱ(Ⅰ部)
- 中国文学演習Ⅲ
- 中国文学講読A B(Ⅰ部)
- 中国文学研究法
- 中国学研究法B(Ⅰ部・Ⅱ部)

レポート・論文制作の技法(Ⅰ部)

東洋思想文化への誘いA(Ⅰ部・Ⅱ部、春学期)二回担当

「唐代文学入門——ロマンチストの李白とリアリストの杜甫」(六月二十八日、一時間／六月二十四日、七時間)

東洋思想文化への誘いB(Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期)二回担当

「宋代文学入門——楽天家の蘇軾と愛妻家の陸游」(十一月十五日、一時間／十一月十八日、七時間)

東洋の身体論(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ)一回担当

「中国文学と身体——纏足にみる女性観」(四月二十六日、七時間)

全学総合ⅠA「哲学への誘い」一回担当

「纏足にみる女性観」(六月二十二日、五時間)

大学院・中国哲学研究指導Ⅰ(博士前期課程)

中国文学特論Ⅱ(博士前期課程)

中国哲学特殊研究Ⅳ(博士後期課程)

小路口 聡

○研究活動

〔論文〕

王畿「發源同志會約」 訳注——陽明門下の講会活動記録を讀む(二)——、『東洋思想文化』東洋大学文学部紀要第七〇集(東洋思想文化学科篇Ⅲ)、二〇一七年三月、一～三六頁(訳注)

〔王畿「慈湖精舍會語」 訳注——陽明門下の會語記録を讀む其の一——〕、『白山中国学』通卷三二三号、二〇一七年三月、二五～四九頁、*吉田公平・早坂俊廣・鶴成久章・伊香賀隆と共著

〔その他〕

「近代の行方と人文知の意義——「物理」と「心理」の間——」、『国際哲学研究』第5号、二〇一七年二月、二〇一七年二月、一四九～一五九頁

〈学会発表等〉

「日本の近代化と道德の問題——西村茂樹『日本道德論』と道德会をめぐって——」(国際哲学研究センター(IRCP)主催研究会「西洋自然観との対峙における日本哲学の形成」第二回「日本儒学と西学との出会い」、東洋大学白山キャンパス第3会議室、二〇一七年九月三〇日)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会(会員)、白山中国学会(理事・「白山中国学」編集委員長)、中国文史哲研究会(会員)、東洋古典學研究会(会員)、国際井上門了学会(会員)

〈研究プロジェクトへの参加〉

科学研究費助成金「陽明門下の講学活動と「会語」資料に関する総合的研究」(研究種目基盤研究(B)、課題番号17H02271)、研究代表者

東洋大学国際哲学研究センター(IRCP)「西洋自然観との対峙における日本哲学の形成」、研究員

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・レポート・論文制作の技法(春学期)

東洋思想文化演習Ⅰ⑩A B / 中国哲学演習Ⅰ①(Ⅰ部)

中国学概論A B (Ⅰ部・Ⅱ部)

中国哲学特講A B (Ⅰ部・Ⅱ部)

卒論指導(中国語・中国哲学文学コース代表、Ⅰ部・Ⅱ部)

東洋思想文化への誘いA(Ⅰ部・Ⅱ部、春学期)

「儒教思想入門——人間の本性は善か、悪か?」(Ⅰ部、

七月十九日、水曜一限 / Ⅱ部 七月二十二日、土曜

七限)

東洋思想文化への誘いB(Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期)Ⅰ部

代表

「朱子学入門——聖人、学んで至るべし」(Ⅰ部、十一月二十九日、水曜一限／Ⅱ部 十二月二日、土曜七限)

東洋の身体論(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ) 一回担当

「儒教の身体論」(六月二十一日、水曜七限)

大学院：中国哲学特論Ⅲ(博士前期課程)

中国哲学演習Ⅱ(博士前期課程)

中国哲学研究指導Ⅲ(博士前期課程)

中国哲学特殊研究Ⅲ(博士後期課程)

中国哲学研究指導Ⅲ(博士後期課程)

○大学管理運営活動

大学院文学研究科中国哲学専攻長・東洋大学東洋学研究所研究員・同編集委員・東洋大学国際哲学研究センター研究員

沼田 一郎

○研究活動

〈講演・学会発表〉

・学会発表「インド伝統法における〈法〉概念の世俗化の過程」(アジア法学会二〇一七年度春季大会、広島経済大学、二〇一七年六月一八日)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会(会員・英文叢書委員会委員)／日本印度

学仏教学会(評議員・会員)／日本佛教学会(会員)／アジア法学会(会員)／国際井上円了学会(会員)／

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部：海外文化研修(集中講義)

サンスクリット文献を読むA・B(Ⅰ部)

古代インドの社会(Ⅰ部・Ⅱ部)

東洋思想文化演習①(Ⅰ部)

インド古典哲学(Ⅰ部・Ⅱ部)

日本の宗教を歩く(集中講義)

東洋思想文化への誘いA(Ⅰ部・Ⅱ部、春学期) 二回

担当

「アジア社会論入門——「アジア」とは何だろうか」(四月一九日、一時限／四月二十二日、七時限、イン

ド思想入門Ⅰ—古代・中世」(四月一六日、一時限、四月二九日、七時限)

思想文化への誘いB(Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期) 一回担当

「インド社会の歴史—カースト社会における在家と出家」(二月六日、一時限／二月九日、七時限)

近代化と東洋(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ) 一回担当

「近代化とインドの伝統思想」(九月二八日、七時限)

全学総合IA 一回担当

「古代インドにおける実践倫理」(六月八日)

総合ⅣA 日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学

と実践―(校友会寄附講座)「第九回 井上円了の

外道哲学 ―日本のインド学の曙―」(六月十日)

大学院・インド哲学研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅱ(前期課程)

インド哲学特殊研究Ⅲ・インド哲学研究指導Ⅲ(後期

課程)

○大学管理運営活動

第Ⅰ部東洋思想文化学科長／東洋大学東洋学研究所研究員・運

営委員

野間 信幸(国内特別研究)

○研究活動

〈論文〉

「張文環作品の舞台を訪ねる」『天理台湾学報』第二六号、天理

台湾学会、二〇一七年七月一日、一―一六頁

〈書評〉

「台湾児童文学研究の到達点を示す著作」『図書新聞』三三〇八

号、二〇一七年六月二四日、第四面、(中島利郎)『台湾の児

童文学と日本人』研文出版)

〈その他〉

「運ちゃんに感謝」『日本台湾学会ニュースレター』第三二号、

二〇一七年四月

「塚本照和先生の思い出」(追悼文)『天理台湾学報』第二六号、

天理台湾学会、二〇一七年七月一日、一四四―一四五頁
(学会発表等)

「作品舞台で張文環作品を考える」(白山中国学会第十二回研究

発表大会基調講演、東洋大学、二〇一七年三月二五日)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本中国学会(会員)／日本台湾学会(会員)／天理台湾学

会(理事)／日本現代中国学会(会員)／白山中国学会(会長)

／中国文芸研究会(会員)

○教育活動

国内特別研究につき、大学院の一部(修士論文指導と審査)を

除き免除さる。

大学院・中国哲学研究指導Ⅱ(前期課程)

○大学管理運営活動

国内特別研究につき、免除さる。

○社会的活動

アジアセンター21(維持会員)

橋本 泰元

○研究活動

〈学会活動〉

日本アジア学会第三十回学術大会(東洋大学白山キャンパス、

平成二十九年九月二十三・二十四日、実行委員)

所属学会ならびに役職

日本印度学佛教学会（理事）／日本宗教学会（会員）／日本南

アジア学会（会員）／日本佛教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」

（二〇一三年度科学研究費補助金「基盤研究（A）」研究代表者・

水野善文「東京外国語大学」連携研究者

「近世南アジアの文化と社会」文学・宗教テクストの通言語的

比較分析（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究

所研共同研究・研究員）

〈調査活動〉

北東インドにおける宗教事情に関する調査―ナーガールランド州

およびスィッキム州における伝統宗教と外来宗教との関係

性―（平成二十九年九月七日～十四日）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・ヒンドゥー教概論A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

ヒンディー語A・B（Ⅰ部）

インド学仏教学演習③（Ⅰ部）

東洋思想文化演習②（Ⅰ部）

仏教の芸能（秋学期、コデーネーター）（Ⅱ部）

東洋思想文化への誘いA（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回

担当

「インド思想入門Ⅰ」（五月十日、一時限／七月一日、

七時限）

東洋思想文化への誘いB（Ⅰ部・Ⅱ部、秋学期）二回

担当

「ヒンドゥー教入門―その根本思想とは？」（十一月八

日、一時限／十一月十一日、七時限）

文学部伝統文化講座（TD）「聲明講演」主催（十一

月十八日）

大学院・インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ（前期課程）

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ（後期

課程）

〈学外担当科目〉

大正大学学部・ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（総合）

東京大学学部・大学院人文社会系研究科・外国語（ヒン

ディー語）

○大学管理運営活動

文学研究科インド哲学仏教学専攻長／文学部内自己点検・評価

委員会委員／東洋大学東洋学研究所研究員・運営委員／東洋

大学国際哲学研究センター研究員

○社会的活動

団体役員等

（特財）大法輪石原育英会評議員

水谷 香奈

○研究活動

〈論文〉

「慈恵大師基の教学における人間観について」(単著、日本佛教学会編『日本佛教学会年報』第八十二号、二〇一七年八月三十一日、一八六～二〇七頁)

〈その他〉

金星順(水谷香奈訳)「韓国の念仏結社に現れた修行法の変容」(東洋大学東洋学研究所ほか共編『東アジア仏教学術論集』第五号、二〇一七年一月十五日、二九一～三三三頁)および同「謝路軍氏のコメントに対する回答」(同、三三〇～三三一頁)

「書評・竹村牧男『ブッディスト・エコロジー―共生・環境・いのちの思想―』(『エコ・フィロソフィ』研究』第十一号、二〇一七年三月、一二五～一二八頁)
ほか韓国語の論文一本を翻訳した。

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(会員)／仏教思想学会(会員)／日本宗教学会(会員)／日本佛教学会(会員)／東アジア仏教研究会(会員)

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「世界の諸地域における仏

教の哲学的社会学的研究」(研究代表者伊吹敦) 研究分担者

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・卒論指導⑦(Ⅰ部、通年)

東洋思想文化演習ⅠA⑦(Ⅰ部、春学期)

東洋思想文化演習ⅠB⑦(Ⅰ部、秋学期)

東洋思想文化演習Ⅱ⑦(Ⅰ部、通年)

卒論指導②(Ⅱ部、通年)

東洋思想文化演習ⅠA②(Ⅱ部、春学期)

東洋思想文化演習ⅠB②(Ⅱ部、秋学期)

東洋思想文化演習Ⅱ②(Ⅱ部、通年)

東洋思想文化演習Ⅱ②(Ⅱ部、通年)

日本仏教史A(Ⅰ部、春学期)

日本仏教史B(Ⅰ部、秋学期)

東洋の身体論(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、コーディネーター、春学期) 二回担当

「はじめに」(四月十二日、七時限)

「まとめ・試験」(七月二十六日、七時限)

近代化と東洋(Ⅰ・Ⅱ部乗り入れ、コーディネーター、秋学期) 三回担当

「はじめに」(九月二十七日、七時限)

「戦争と日本仏教」(十一月二十九日、七時限)

「まとめ・試験」(一月十七日、七時限)

東洋思想文化への誘いA（I部・II部、春学期）二回
担当

「日本仏教入門1—日本仏教の歴史を学ぶ」（七月五日、一時限／四月二十九日、七時限）

東洋思想文化への誘いB（I部・II部、秋学期）二回
担当

「日本仏教入門2—日本仏教の特色を学ぶ」（十二月二十日、一時限／十二月二十三日、七時限）

全学総合IA1（I・II部乗り入れ）一回担当
「唯識思想における世界と自己」（五月二十五日、五時
限）

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学国際哲学研究センター
研究員

山口 じゆん

○研究活動

〈論文〉

“The Statues of Hindu Deities in Pura Puseh, Batubulan,”
BĀLI-PRAJĀNA 第三卷11号（2016年（実際の発行は
2017年五月）、50～58頁）

“Three Meditations of Durgāparīśodhanamāṇḍala: A Study
on a Nepalese Tantric Buddhist Text *Durgāparīśodhana-*

śamadhī,” *BĀLIYŌTIH* 第一卷1号（2017年九月
四3～56頁）

〈口頭発表〉

“Syncretism of Hinduism and the Other Religions in Indonesia and India: Cases of *Sang Hyang Kamahayanikan* and Kabir’s thought.” World Hindu Parisad World Hindu Wisdom Meet 2017: Para and Aparā Vidyā as the Base of Hindu Body of Knowledge（2017年六月十一日）Institut Seni Indonesia Denpasar: Bali）

“Buddhism Born from Hinduism: Transformation of the Buddhist Truth in India and the Spread of Dharma in Nepal.” International Seminar: Sanātana Dharma as the Eternal Truth and Spread in the Different Forms, Doctoral Program of Religious Studies Postgraduate, Denpasar State Hindu Dharma Institute in Collaboration with Alliance Française Bali（2017年七月十一日）Institut Hindu Dharma Negeri, Denpasar, Bali）

（基調講演）“The Past, Present, and Future of Nusantara Heritage: Focusing on the Religion and Culture in Bali.” International Seminar on Nusantara Heritage: Nusantara’s Cultural Arts Diversity as Inheritance Source of Tolerant and Inclusive Society’s Development Value（2017年七月二十五日）Institut Seni Indonesia Denpasar, Bali）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会（会員）／日本宗教学会（会員）／日本南

アジア学会（和文雑誌編集委員・会員）／日本佛教学会（会員）

／日本西蔵学会（会員）／密教図像学会（会員）／東海印度学

仏教学会（会員）

〈研究プロジェクトへの参加〉

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「世界の諸地域における仏
教の哲学的社会学的研究」研究分担者（研究代表者 谷地快

一、二〇一七年一月～三月）

東洋大学国際哲学研究センター（第三ユニット研究員、

二〇一七年一月～三月）

〈調査活動〉

海外特別研究により、インドネシア、バリ島のヒンドゥー教儀

礼・図像の実態調査（二〇一七年四月一日～十二月三十一日）

○教育活動（二〇一七年一月～三月）

〈学内担当科目〉

学 部：卒論指導⑧（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ⑧（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅰ③（Ⅱ部）

東洋思想文化演習Ⅱ⑧（Ⅰ部）

東洋思想文化演習Ⅱ③（Ⅱ部）

チベット語B（Ⅰ部）

チベット仏教のあゆみ（Ⅰ部、Ⅱ部）

インド・仏教の美術B（Ⅰ部）

大学院…インド仏教研究ⅣB、仏教学研究指導ⅡB（前期課程）

仏教学特殊研究ⅡB、仏教学研究指導ⅡB（後期課程）

○大学管理運営活動

東洋大学総合科目運営委員会委員（二〇一七年一月～三月）／東

洋大学文学部予算委員会委員（二〇一七年一月～三月）／東

洋大学東洋学研究所研究員／東洋大学アジア文化研究所研究
員／東洋大学国際哲学研究センター研究員（二〇一七年一月

～三月）

山田 利明

○研究活動

〈講演・研究発表〉

「中国史に見る人口減少について」（サステイナブル・サイエン

ス・コンソーシアム研究集会、二〇一七年六月一日）

〈学会活動〉

所属学会・役職

日本中国学会（会員）、日本道教学会（理事）、日仏東洋学会

（会員）／The Society for the Study of Chinese Religion（会員）

〈研究プロジェクト〉

東洋大学エコ・フィロソフィ学際研究イニシアティブ（機構長）

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部…

中国哲学演習ⅠA・B（Ⅰ部）

中国哲学特講ⅡA／BA・B（Ⅰ・Ⅱ部）

中国哲学史A・B（Ⅰ・Ⅱ部）

東洋芸術文化演習A・B（Ⅰ部）

総合ⅠA・B（高大連携科目）（Ⅰ部）

東洋思想文化への誘いA・B（Ⅰ・Ⅱ部）各期2回担当

当

前期「中国哲学入門―天の思想と人のあり方」

後期「道家思想入門―無と自然」

大学院…中国哲学特殊研究Ⅴ

中国哲学研究指導Ⅴ（以上後期課程）

中国哲学演習Ⅰ

中国哲学研究Ⅰ

中国哲学研究指導Ⅳ（以上前期課程）

○大学学部管理運営

高等教育推進委員会委員

○社会的活動

一般社団法人サステイナブル・サイエンス・コンソーシアム理

事

渡辺 章悟

○研究活動

〈論文〉

「空性表現から見た『般若心経』の成立」〔『東洋思想文化』第
四号、二〇一七年三月、二五～六六頁〕

「説法師 (dharmaśāstra) 考」〔『印仏研究』第六六卷・第一号、
二〇一七年二月、四〇四～三九八頁（横組み）〕

〈学会発表〉

「説法師 (dharmaśāstra) 考」日本印度学仏教学会・第六八
回学術大会、京都・花園大学、平成二九年九月二日（土）

〈特別講義〉

「般若心経」を読み解く」（全一〇回）大正大学総合仏教研究所、
二〇一七年一月一八日・二五日、二回連続講義

「大乘仏教のエッセンスと智慧の経典・般若経」（全四回）
NPO法人中村元記念館東洋思想研究所、二〇一七年三月
二五～二六日、島根県松江市

「仏青のなりたち」（大学仏教青年会連合、第一回研修会）
二〇一七年九月七日（木）池上、日蓮宗宗務院

「仏教青年会の歴史と現在」黄檗勉強会、二〇一七年九月一九
日（火）、花小金井市・黄檗宗円成院

〈講演・シンポジウム〉

シンポジウム発表「大乘仏典の伝承者—dharmaśāstra（説
法者）の位置づけ」（国際哲学研究センター）「聖典はどのよ

うな聖典か」

うに伝えられたのか―宗教の言葉と思想を考える―」東洋大学、一〇月二二日(土)

シンポジウム発表「般若経の意図するもの」(《般若経》与东亚佛教) 第七回中日仏学会議・中國人民大學佛教與宗教學理論研究所主催、中国山東省烟台市福山賓館、二〇一七年一〇月二八日(土)

シンポジウム発表「般若心経のルーツと構成」(パウッターコーシヤ科研公開シンポジウム)「般若心経」を解体する―『般若心経』研究の最前線―)、二〇一七年一月二五日(土)、国際仏教学大学院大学・春日講堂

シンポジウム発表「大蔵経の英訳とその課題」(宗典翻訳事業の意味を問う―禅からZENへ―)『伝光録』英訳刊行記念シンポジウム・曹洞宗国際センター、二〇一七年一月二七日(月)、港区芝・東京グランドホテル内

公開講義の司会・コブラ・ヴェクター・パパー博士(インド・アーンドラ大学客員教員) Buddhist Influences on Present Society in India and Religious Conversions into Buddhism 東洋学研究所主催、二〇一七年一〇月九日(月)

ワークショップの企画/主催
(その他)

「大乘仏教概論」『佛教文化』第一八三号(東京国際仏教塾)、二〇一七年八月一〇日、二一六頁

〈学会活動〉

・所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会(理事・評議員・企画編集委員・学会賞選考委員) / 仏教思想学会(理事・評議員) / 日本西蔵学会(委員) / (般財) 東方学会(地区委員・会員) / 日本宗教学会(評議員) / 日本佛教学会(会員) / (公財) 東方研究会(兼任研究員) / 日本仏教心理学会(会員) / 国際仏教学会(IABS)(会員)・学会参加等

仏教思想学会第三三回学術大会、立正大学、二〇一七年七月八日(理事会・研究発表会の司会)

日本印度学仏教学会第六七回学術大会参加、花園大学、二〇一七年九月二日～三日(二日間、理事会・研究発表・司会)

〈研究プロジェクトの主宰及び参加〉

「般若経の教理・儀礼・実践の総合的研究」(東洋大学東洋学研究所プロジェクト、研究統括者)

「八千頌般若」のデータベースと言語索引の構築」(科学研究費助成(基盤研究C) 研究統括者)

東洋大学国際哲学研究センター(センター長・河本英夫「東洋大学」第二ユニット「課題・宗教の超克と調和に向けて」に所属、仏教を中心とした多文化・多宗教共生の研究を行う。研究員、運営委員。

東洋大学東洋学研究所プロジェクト「世界の諸地域における仏

教の哲学的・社会的・研究代表者伊吹敦 研究分担者

「パウッダコーシヤ・仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究」文科省科学研究費「基盤研究(A)」(研究代表者・斎藤明「国際仏教学大学院大学」研究分担者)

○教育活動

〈学内担当科目〉

学部・ブッダの思想とその展開 A・B (I・II部)

大乘仏教の思想 I (II部)

インド学仏教学演習④ (I部)

インド学仏教学演習 (II部)

文学部総合科目 I (I・II部共通)

・ 東洋思想文化への誘い A (I部・II部、春学期) 二
回担当

・ 東洋思想文化への誘い B (I部・II部、秋学期) 二
回担当

・ 宗教をめぐる諸問題 A・B (I・II部乗り入れ) 二
回担当

・ 総合Ⅲ A・B (校友会寄附講座、I・II部乗り入れ)
運営責任者ならびに六回の授業担当

大学院・大乘仏教研究 I・仏教学研究指導 I (博士前期課程)

仏教学特殊研究 I・仏教学研究指導 I (博士後期課程)

〈学外担当科目〉

大正大学大学院「MD仏教学特論 A・B」春学期・秋学期

早稲田大学大学院「東洋哲学特殊問題2」春学期・秋学期

○大学管理運営活動

東洋大学東洋学研究所 (運営委員・研究所員) / 東洋大学国際

哲学研究センター (運営委員・研究所員) / 「井上円了が志し

たものとは」選考委員会 (委員)

○社会的活動

(公財) 仏教伝道協会・英訳大藏経編集委員会 (委員)・仏教聖

典編集委員会 (委員)・助成金審査委員会 (委員) / (特財)

大法輪石原育英会奨学生選考委員会 (委員) / (公財) 中村元

東洋思想文化賞審査委員会 (審査員) / 東洋大学仏教会 (会長)

二〇一七年度開講科目

・授業名、サブタイトル、担当者の順に記す。

・通年科目はA（春学期）・B（秋学期）に分かれるが、担当者が同一であり、かつ、サブタイトルが春秋通じて同一の場合、その区分は省略して記した。

・ただし、半期のみ授業については《春》《秋》と表記した。

・担当者および《春》《秋》の授業区分に付したカッコ内の数字は、それぞれI部・II部の区別を示す。カッコが付されていないものは、I部II部隔年開講の科目か、I部・II部の担当者が同一であることを示す。

〈学部〉（五十音順）

東洋思想文化学科

アジアの古典《春》（インドの古典に触れる）

宮本 城

アジアの文学（台湾の社会運動と文学）

橋本 恭

イスラーム概論《秋》（イスラームの捉え方）

柴山 滋

インド現代思想《春》（インド近・現代宗教思想家の生涯と思想）

宮本久義（II）

インド古典思想概論A（ウパニシャッドの思想）

沼田一郎

インド古典思想概論B（ヴェーダの思想）

沼田一郎

インド思想史A B（インド思想と宗教の潮流を概観する）

橋本泰元（I）

インド思想史A（インド思想と宗教の潮流を概観する）

宮本久義（II）

インド思想史B（インドの叡智を探る）

宮本久義（II）

インド思想特講I A《春》（Social structure of Ancient India and the concept of Vaw）

沼田一郎（I）

インド思想特講II A《秋》（古代インド社会の構造と「法」概念の展開）

沼田一郎（II）

インド思想特講I B・II A（インドの歴史と文化）

石川 寛（II）

インド思想特講II B（古代インドの伝統的作法ヨーガと伝承医学アーユルヴェーダ）

宮本久義（I）

インド思想特講III A《春》（グローバル社会のインド芸能・宗教・儀礼）

古賀万由里（I）

インド思想特講III B《春》（インド神話を知る）

宮本 城（I）

インド仏教史A（釈尊の覚りとその展開）

岩井昌悟

インド仏教史B（大乘仏教とは何か）

岩井昌悟

インド・仏教の美術A（インドの宗教美術）

朴 亨國

インド・仏教の美術B（仏教図像学）

朴 亨國

インド舞踊《秋》（インド舞踊・バラタナターティヤムの実技と理論）

久保田幸代

インド文化概論A《春》（東西バンジャール地方を繋ぐ悲恋民

話『ヒールとラーンジャー』の文化世界) 村山和之

インド文化概論B《秋》(ヴェンディヤ山脈の頂きからインド

文学を見る) 高橋孝信

インド文化概論B《春》(文学を通して見るインド文化)

宮本 城(I)

韓国語A《春》 佐藤 厚

韓国語B《秋》 佐藤 厚

韓国仏教史《秋》 佐藤 厚(II)

漢文訓読法①《春》 川崎ミチコ(I)

漢文訓読法②《秋》 播本崇史(I)

漢文訓読法《秋》 川崎ミチコ(II)

基礎中国語A①《春》(初めての中国語学習) 荒井 礼(I)

基礎中国語A②《春》(HSK2級に必要な文型をマスターする) 吉田雅子(I)

基礎中国語A③《春》(中国語初心者のための授業) 橋本恭子(I)

基礎中国語B①《秋》(初めての中国語学習) 荒井 礼(I)

基礎中国語B②《秋》(HSK2級の単語と文型をマスターし、合格する) 吉田雅子(I)

基礎中国語B③《秋》(中国語初心者のための授業) 橋本恭子(I)

基礎中国語A①《春》(中国語の基礎を学ぶ) 王 連旺(II)

基礎中国語A②《秋》(中国語の基礎を学ぶ) 王 連旺(II)

キリスト教概論《春》(キリスト教の基礎的知識をまず学習し、

その上で、キリスト教の母体である古代ユダヤ教と、それを

背景としたキリスト教の誕生について、歴史的・思想的に学

んでゆく。) 山中利美(I)

近世日本思想A(日本近世の宗教と思想(十六・十七世紀を中

心に) 伊藤 聡(I)

近世日本思想B(日本近世の宗教と思想(十八・十九世紀を中

心に) 伊藤 聡(I)

近代化と東洋《秋》(東洋は近代化をどのように受け止めたか)

(オムニバス形式) 水谷香奈

現代に生きる仏教《春》(現代社会のさまざまな問題に関わる

「Engaged Buddhism」について、具体的な事例から学ぶ) 高瀬顕功(I)

現代のインド《秋》(インド近・現代の政治と社会) 宮本久義(II)

坐禅《春》(「いま」を見つめる) 石井清純

サンスクリット語I A B(古典サンスクリット入門) 沼田一郎

サンスクリット語II A B(実践サンスクリット中級) 渡辺章悟

写経《春》 張堂興昭

宗教学I A B(死生観の比較) 北沢 裕

宗教学II A(日本人と宗教の関わり…伝統、そして現代)

- 宗教学ⅡB（伝統仏教学（苦しみからの解放の方法としての仏教））
 吉村 均（Ⅱ）
 中国哲学講読AB①（『莊子』の研究） 山田利明
 中国哲学講読AB②（『天道溯源』講読） 中村 聡
 中国哲学特講IA（原典資料で読む朱子学概論） 小路口聡
 中国哲学特講IB（原典資料で読む陽明学概論） 小路口聡
 中国の美術A（先史～南北朝時代の中国美術） 萩原 哉（Ⅰ）
 中国の美術B（隋唐～明清時代の中国美術） 萩原 哉（Ⅰ）
 中国の美術AB（中国の仏教・道教を中心とした宗教美術史） 田中知佐子（Ⅱ）
 宗教学概論A（多様な教理と実践の世界） 島田茂樹
 宗教学概論B（華麗なる文化と芸術の世界） 島田茂樹
 宗教社会学A（『宗教』の社会性と個人性） 富澤かな
 宗教社会学B（インドの社会と宗教とその理解） 富澤かな
 宗教社会学A（『宗教』の社会性と個人性） 伊藤 聡
 神道史A（神仏習合思想の形成と展開（古代）） 伊藤 聡
 神道史B（神仏習合思想の形成と展開（中世）） 伊藤 聡
 総合ⅣAB①（日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践―（オムニバス形式）） 渡辺章悟
 卒業論文演習《春》（4年間の学習・研究の総決算にむけての指導） 小路口聡（Ⅰ）
 チベットの仏教史《春》 石川美恵
 中国学概論AB（『中国学』の可能性） 小路口聡
 中国学研究法A（中国哲学研究の基礎知識） 播本崇史
 中国学研究法B（中国学の基礎知識を学ぶ） 坂井多穂子
 中国現代文学史AB（中国二〇世紀文学の歩み） 馬 雪峰
 中国語学演習AB（名言と笑話で覚える中国語） 馬 雪峰
 中国史概説A（中華世界の拡大と再生） 竹内洋介
 中国史概説B（『華夷一家』への道） 竹内洋介
 中国哲学講読AB①（『莊子』の研究） 山田利明
 中国哲学講読AB②（『天道溯源』講読） 中村 聡
 中国哲学特講IA（原典資料で読む朱子学概論） 小路口聡
 中国哲学特講IB（原典資料で読む陽明学概論） 小路口聡
 中国の美術A（先史～南北朝時代の中国美術） 萩原 哉（Ⅰ）
 中国の美術B（隋唐～明清時代の中国美術） 萩原 哉（Ⅰ）
 中国の美術AB（中国の仏教・道教を中心とした宗教美術史） 田中知佐子（Ⅱ）
 中国仏教史A（初伝期から南北朝まで） 伊吹 敦
 中国仏教史B（隋代から現代まで） 伊吹 敦
 中国文化史AB（中国思想文化―入門と手ほどき―） 伊吹 敦
 中国文学史A（先秦～六朝文学の成立と展開を俯瞰する） 播本崇史
 中国文学史B（唐以降の中国文学の展開を学ぶ） 川田 建
 中国文学講読AB①（『敦煌文獻』を読む） 川崎ミチコ
 中国文学講読AB②（李白の詩を読む） 坂井多穂子
 中国文学特講IA B（台湾における日本マンガ・アニメ文化受容の諸相を知る） 川田 建（Ⅱ）
 中国文学特講II A②（蜀における杜甫） 川合康三（Ⅰ）
 中国文学特講II B②（夔州における杜甫） 川合康三（Ⅰ）
 中国文献学A B 川崎ミチコ
 中国文字学A B 坂本頼之

- 哲学概説A（自分の頭で考えて、自分の言葉で伝えるということ）
と） 渡邊郁子（Ⅱ）
- 哲学概説B（自分の頭で考えて、主体的に行動するということ）
渡邊郁子（Ⅱ）
- 東西交渉文化史A（中央アジアの歴史（前編・古代～前近代））
秋山 徹
- 東西交渉文化史B（中央アジアの歴史（後編・近代））
秋山 徹
- 東南アジア仏教史《春》（上座仏教における主要経典と基本的
仏教用語、仏教思想の把握、またスリランカ及び東南アジア
諸国における上座仏教の国家的受容とその変遷過程の理解）
藪内聡子（Ⅱ）
- 東洋思想A（東洋の倫理思想―チベットの倫理思想を中心とし
て―） 島田茂樹
- 東洋思想B（東洋の倫理思想―神秘主義（タントリズム）を中
心として―） 島田茂樹（Ⅱ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ①（インド思想・文化の研究―インド
古代文化史の諸問題） 沼田一郎（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ②（ヒンドゥー教の思想・文化研究Ⅲ）
橋本泰元（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ③（インド大乘仏教の研究）
渡辺章悟（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ④（初期仏教研究）
岩井昌悟（Ⅰ）

- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑥（文献の読解と研究発表）
伊吹 敦（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ⑦（日本の仏教的民俗・文化の研究）
水谷香奈（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ⑨（朱熹『孟子集注』を読む（そのⅠ））
小路口聡（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ⑪（唐代伝奇小説を読む）
坂井多穂子（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅱ⑪（中国の笑話を読む）
坂井多穂子（Ⅰ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ①（インド思想・文化の研究）
岩井昌悟（Ⅱ）
- 東洋思想文化演習Ⅰ・Ⅱ②（仏教思想の研究）
水谷香奈（Ⅱ）
- 東洋思想文化演習④（唐代伝奇小説を読む）
坂井多穂子（Ⅱ）
- 東洋思想文化演習Ⅱ④（『論語』を読む）
山田利明（Ⅱ）
- 東洋思想文化演習Ⅱ⑨（『国語』を読む）
川田 建（Ⅰ）
- 東洋芸術文化特講ⅠA《春》（インド映画論）
宮本久義（Ⅰ）
- 東洋芸術文化特講ⅠB《秋》（中国絵画の思想）
山田利明（Ⅰ）
- 東洋芸術文化特講ⅡA《春》（南アジアの音楽文化と宗教思想）
田森雅一（Ⅱ）
- 東洋芸術文化特講ⅡB《秋》（バリ島の芸能から人間の創造性
を学ぶ）
山本早良紗（Ⅱ）

東洋芸術文化特講ⅣA《春》(仏伝図の絵解き)

岩井昌悟 (I)

東洋思想文化への誘いA B

沼田一郎 (I代表)

東洋思想文化への誘いA B

岩井昌悟 (II代表)

東洋の身体論《春》(「こころとからだをどう見るか」(オムニバ

ス形式)

水谷香奈

日本漢学A B (日本では漢学を如何に学んで来たのか)

坂本頼之

日本の宗教を歩く《春集》(思想と文化を体感しよう)

沼田一郎

日本仏教史A (日本仏教史(飛鳥時代〜鎌倉時代))

水谷香奈 (I)

日本仏教史B (日本仏教史(鎌倉時代〜現代))

水谷香奈 (I)

日本仏教史A (日本における仏教のあゆみと社会・文化

―仏教伝来から鎌倉仏教(前半)まで―) 橋川智昭 (II)

日本仏教史B (日本における仏教のあゆみと社会・文化

―鎌倉仏教(後半)から明治時代以後の仏教まで―)

橋川智昭 (II)

パブリ語A B (聖典に直に触れる)

岩井昌悟

比較宗教A (宗教間の差異を理解するための基礎知識を習得す

る。方法論として宗教理論や諸宗教の基礎知識を学ぶ。西洋

と東洋という空間的な区分だけでなく、古代・中世・近世・

近代・現代という時代区分にも配慮する)

松野智章

比較宗教B (宗教間の違いだけでなく宗教間の接触や宗教間対

話の問題を考察する。宗教が紛争と関わりを持つてきたこと

は事実である。諸宗教が国際社会の中でどうあるべきか模索

することである。)

松野智章

ヒンディー語A (ヒンディー語入門I)

ヒンディー語B (Introduction to Hindi. 2)

ヒンドゥー教概論A B (ヒンドゥー教の思想を学ぶ)

橋本泰元

仏教漢文A (仏教漢文の基礎)

伊吹 敦

仏教漢文B (経典注釈・浄土教文献を読む)

伊吹 敦

仏教思想概論A (〜仏教とは何か)

渡辺章悟

仏教思想概論B (仏教の思想とその展開)

渡辺章悟

仏教思想特講I A《春》(〜空の世界に何があるのか)

渡辺章悟 (II)

仏教思想特講I B《春》(華嚴経の思想)

金本拓士 (I)

仏教思想特講II A《春》(禅思想の形成と社会との交渉)

伊吹 敦 (II)

仏教思想特講II B《秋》(密教の思想)

金本拓士 (I)

仏教と社会福祉《秋》(仏教の行ってきた社会福祉事業の歴史

的展開とその役割について検証し、現代に必要とされる仏教

的な社会福祉のあり方を共に提言する) 高瀬顕功 (I)

仏教の芸能《秋》(仏教伝統歌謡の基本を学び実修してみよう)

〈オムニバス形式〉

ヨーガ《春》(実践をとおして思想を学ぶ)

レポート・論文制作の技法①《春》

レポート・論文制作の技法②《春》

レポート・論文制作の技法③《春》

レポート・論文制作の技法④《春》

レポート・論文制作の技法⑤《春》

レポート・論文制作の技法⑥《春》

レポート・論文制作の技法①《春》

レポート・論文制作の技法②《春》

橋本泰元 (Ⅱ)

番場裕之 (Ⅱ)

渡辺章悟 (Ⅰ)

坂井多穂子 (Ⅰ)

山田利明 (Ⅰ)

小路口聡 (Ⅰ)

橋本泰元 (Ⅰ)

伊吹 敦 (Ⅰ)

岩井昌悟 (Ⅱ)

沼田一郎 (Ⅱ)

東アジア仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅳ A B

東アジア仏教研究Ⅱ A B

東アジア仏教研究Ⅲ A B

博士後期課程

インド哲学研究指導Ⅰ A B・インド哲学特殊研究Ⅰ A B

インド哲学研究指導Ⅱ A B・インド哲学特殊研究Ⅱ A B

インド哲学研究指導Ⅲ A B・インド哲学特殊研究Ⅲ A B

インド哲学研究指導Ⅳ A B・仏教学特殊研究Ⅲ A B

仏教学研究指導Ⅰ A B・仏教学特殊研究Ⅰ A B

仏教学研究指導Ⅱ A B・仏教学特殊研究Ⅱ A B

仏教学研究指導Ⅲ A B・仏教学特殊研究Ⅲ A B

仏教学研究指導Ⅳ A B・仏教学特殊研究Ⅳ A B

伊吹 敦

襄輪顕量

林田康順

宮本久義

橋本泰元

沼田一郎

渡辺章悟

岩井昌悟

伊吹 敦

山田利明

小路口聡

中村 聡

小路口聡

有澤晶子

牧角悦子

〈大学院〉
インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

インド哲学研究Ⅰ A B・インド哲学研究指導Ⅱ A B 沼田一郎

インド哲学研究Ⅱ A B・インド哲学研究指導Ⅲ A B 橋本泰元

インド哲学研究Ⅲ A B 高橋孝信

インド哲学研究Ⅳ A B・インド哲学研究指導Ⅰ A B 宮本久義

インド哲学仏教学特殊演習 A B 伊藤 真

インド仏教研究Ⅰ A B・仏教学研究指導Ⅲ A B 岩井昌悟

インド仏教研究Ⅱ A B 松村淳子

インド仏教研究Ⅲ A B・仏教学研究指導Ⅰ A B 渡辺章悟

インド仏教研究Ⅳ A B・仏教学研究指導Ⅱ A B 田中公明

〈大学院〉

中国哲学専攻

博士前期課程

中国哲学演習Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅳ A B

中国哲学演習Ⅱ A B・中国哲学研究指導Ⅲ A B

中国哲学研究Ⅰ A B

中国哲学特論Ⅲ A B

中国文学演習Ⅰ A B・中国哲学研究指導Ⅰ A B

中国文学演習Ⅱ A B

伊吹 敦

襄輪顕量

林田康順

宮本久義

橋本泰元

沼田一郎

渡辺章悟

岩井昌悟

伊吹 敦

山田利明

小路口聡

中村 聡

小路口聡

有澤晶子

牧角悦子

中国哲学研究指導Ⅱ A B

野間信幸

中国文学特論Ⅱ A B・中国哲学研究指導Ⅰ A B

坂井多穂子

中国語学研究Ⅱ A B

川合康三

博士後期課程

中国哲学研究指導Ⅰ A B

野間信幸

中国哲学特殊研究Ⅱ A B

有澤晶子

中国哲学特殊研究Ⅲ A B・中国哲学研究指導Ⅲ A B

小路口聡

中国哲学特殊研究Ⅳ A B

坂井多穂子

中国哲学特殊研究Ⅴ A B・中国哲学研究指導Ⅴ A B

山田利明

二〇一七年度卒業論文題目

インド哲学科卒業論文

〈I部〉

鳥淵奏美

王朝文学における色好みとの比較からみる『カーマストラ』におけるナーガラカの恋愛観

渡邊愉香

日本における死生観について
「内部統制」の寺院への適用の考察—COSOFレー
ムワークの有用性—

葦名 聡

「内部統制」の寺院への適用の考察—COSOFレー
ムワークの有用性—

藤田 廉

仏教活論序論は何故反響があつたか

川島 卓

孔子と『論語』に関する考察

福井義大

楊朱の死生観
人心・道心 再考

難波隼人

〈II部〉

高橋 周

初期仏教経典における無明 (avijja) の研究—
カーヤにおける用例—

笹谷怜那

北東インド・ナガランド人のアイデンティティの
源泉

瀬下真哉

藤原芙美子

小林智里

北爪允恒

寺田実歩子

佐藤優也

平田康介

飯島 亮

吾郷美流

岩田千奈

樺澤美沙登

久保木翔太

桑原悠那

斉藤萌子

鈴木秀治

関口直紀

谷 拓宣

塚本ゆほ

土屋博之

人々の死後世界に対する考え方について

ブッダは輪廻思想を認めていたのか

—Suttanipata 第四章 Aṭṭhaka-vagga、第五章

Parayana-vaggaを通じ—

盆栽の海外受容に関する考察

『孫子』と『戦争論』から考えるシビリアン・コ
ントロールについての考察

陶淵明は「田園」に安居し得たか

——「帰去来の辞」から陶淵明像を再認識する

インドの経済発展とカースト制

律蔵における manussa の研究

李白は仙人か

『聊齋志異』にみる幽霊

「帰去来兮辞」から見る陶淵明像

武道の中に生きる中国思想

グローバル化とインド社会

朱子学が科挙にもたらした可能性

仏教と女性問題—仏教は女性差別の宗教家か—

日本書紀から見る伊勢神宮と式年遷宮

南伝大藏経からみる男女の差異

顔回から学ぶ人間性

『ヨーガ・ストトラ』における「心」の問題

絵師・伊藤若冲の作品から見る仏教的要素

- 寺田隆真
和辻哲郎の倫理学と仏教思想
- 春山 昂
仏像の印相とその存在意義
- 日高有理奈
現代のヨーガにおけるアーサナ
- 又賀崇義
野球を東南アジアへ
- 三戸部拓哉
陽明学者としての中江藤樹
- 本橋遥香
井上円了のキリスト教批判
- 門傳彩生
―『真理金針』、『仏教活論序論』を中心に―
- 木下智貴
運慶の作風の変化
- 齊藤 舜
二種類の翻訳を通じた新しい『論語』理解
- 川久保葉月
― 関西弁で翻訳された『論語』との比較 ―
- 千葉 錬
孟子の思想観と関連した学派との関係性
- 中井絵理
日本の結婚式の変遷
- 中村 勇
中江藤樹の「孝」思想について
- 石井綾乃
江戸時代から現代において人々の彫り物に対する
- 木村慧海
考へ、とらえ方の変容と図柄の伝統
- 齊藤 大
沖繩社会におけるシャーマンの存在意義について
- 舟山すりあ
インドにおけるゾンビ映画の展望
- 栞田涼香
日本の聖天・歓喜天信仰とガネーシャ神について
- 死生観について
陽明学と現代社会―王陽明の「立志説」を中心に―
- ― 巴りの観光地化とバロンドンズ
- 『古事記』・『万葉集』を中心に
見る古代日本人の
- 兪 玲華
祖先崇拜に見る日中の文化相違―益と清明節を中
心に―
- 吉田佑子
『一遍上人聖絵』の研究―一遍上人の念仏思想に
ついて―
- 若林祐輝
インドにおけるジェンダー問題と貧困
- 井上仁奈
曼荼羅の分類と九会曼荼羅の構成
- 内橋佳那子
大和政権と沖ノ鳥祭祀
- 小出 隼
漢代における書道芸術の発展について
- 阿久津佑太郎
ガンディーの断食
- 足立悠海
ヴィシヌス神の化身
- 天野和貴
仏教の自殺観研究史
- 海老原悠樹
伊藤仁斎の思想
- 大石 楓
大正ロマンの誕生―女性ファッションから見る―
- 上村美月
説話集における教訓の比較
- 小山 穰
マテオ・リッチの中国キリスト教布教と典札問題
の考察
- 戸田雅也
仏教徒窄融―後漢から三国時代にかけての仏教
- 中山桃子
日韓大衆文化の交流の変遷
- 初芝菜摘
日本企業のアジア進出について
- 福田玲奈
儒教社会で発揮される女性の母性の在り方
- 柳田優吾
―『華陽国志』から女性の生き方を考える―
- 中世西洋と仏教のつながり
―イエズス会宣教師は仏教とどのような関係を

築いたか―

インド経済の発展について

日本人のイスラーム観

現代インドにおける本質的な音楽の追究の方法

インド映画における女性像の変遷

『三字経』にみる教育思想について

文献における地獄の描写

瞑想、マインドフルネスの影響とその意義

仏教大国タイにおける王室信仰

高麗八万大藏経とその雕造の理由についての研究

孫氏の与えた影響とその需要―きぎょうの経営者

を中心―

イスラム圏に見られる女性の権利―イラン女性と

ヴェール―

朱子の仏教批判

日本の婚礼における歴史とその特性

戦時中における鈴木大拙の思想

キリスト教が中国に入って与えた影響

インドにおける蛇の神格化と変容

台湾の道教について

アンベードカルの仏教改宗について

インドにおける食文化の変容―植民地期を通し

て―

加藤 貴

『呉子』の兵法書研究―『呉子』の現代における有用性について―

李白 妻への想い

イスラーム国は国家なのか

日本とインドの民話における動物比較とそこから読み取れる文化

―乗思想におけるdhamadhatuの意義

インドにおける女性問題とその取り組み

『論語』から学ぶ働き方

高啓小考―「尋胡隱君」を中心―

朱子・王陽明の聖人観比較

陶淵明と桃花源記―淵明はどのような思いで書いたのか―

『郁迦羅越問菩薩行經』Gīṇapaty-ugra-paripīc-

chaにおける布施dāna

破僧法勅におけるアシヨカと部派分裂の関係性

熊野修験と熊野詣との結びつき―民衆にとつての熊野の地とは―

五代・北宋における山水画の隆盛とその理由

ヨーガの研究―インド古来のヨーガと現代日本でのヨーガから―

性産業で働くタイの女性たち

人工知能が宗教に与える影響

奥野絢子

今井晟人

今井晟人

伊藤 瞳

大隅桃子

岡本拓海

小見寺遙

片山百恵

菊川絃子

小澤すず

齋藤のどか

申 成剛

平 将也

田中美里

大門 宝

山本実優

石井慶太

岸なつみ

千葉大輔

中野双葉

伊藤真三子

岩永包乃華

大石早希

明治期以降の漢文教育の変遷

— これからの漢文教育のあり方について考える —

金山恭平

国民食カレーライスの誕生について

斉藤 拓

葬儀における読経の機能

千葉芳輝

中世アフガニスタンにおける彌那天神信仰とその寺院の特定

成澤茉莉由

動物神信仰からみる日本における馬頭観音信仰の「変容と普及の要因

泉菜々歩

李白と酒からみる李白の人生観

森田健斗

朱子の社倉の意義と影響

山口華織

仏教における女性観

井上るか

ジャータカの考察—価値観を探る—

柴崎郁江

古代の浦島伝説と神仙思想との関係性

佐々木彩絵

安倍晴明とその生涯

太田将平

『ミランダ王の問い』にみるインド・ギリシア間の思想交流

〈II部〉

杉山陽子

ハタ・ヨーガの伝統—主要3文献の比較—

甘樂銀次

カースト制度における不可触民の現状

野村淳哉

『中庸章句』の聖人と禅宗の仏性

長谷田航大

法然について—生涯と専修念仏を中心として—

稗田 瞬

「日本人の死生観」—古代から中世の文献を中心として—

に

樋口将克

三国志演義で描かれている諸葛亮

古内成典

古ウパニシャッドにおけるヨーガ行法とその萌芽

山口 満

高適における「知己」の表現について

伊藤萌子

弥勒仏像の信仰と図像的特徴の関係性—中国と日本の作例を中心に—

石黒未樹

和様書道の歴史の変遷とその意義

手塚雅世

役行者伝承—『私聚百因縁集』と『元亨釈書』を中心に—

石田一貴

宗教の終末思想と政治の関係

金子友紀

龍信仰の東西比較文化論

高戸隆太郎

日本建築から見た「日本らしさ」

大学院インド哲学仏教学専攻修士論文

谷釜智洋

真宗の「皇道仏教」化に関する研究—真宗大谷派の布教冊子『御大典と真宗』にみる「真俗二諦論」の検証—

大学院中国哲学専攻修士論文

豊田尚徳

康有為の大同思想形成の過程

常天天

巴金『寒夜』研究—「好人」にもたらされる悲劇の意味

車曉威
龐 芮

魯迅の散文詩集『野草』の生命哲学について
郁達夫初期作品に描かれた女性像

東洋思想文化 第5号

(東洋大学文学部紀要 第71集)

平成三十年二月二十八日 印刷

平成三十年二月二十八日 発行

〔非売品〕

発行所 東洋大学文学部

東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 東洋思想文化学科〇三三五七三在

印刷 共立印刷株式会社

東京都杉並区和田一―一四―一三

電話 〇三―三三八二―一二一